

鈴木一吉教育長に帰国のあいさつをする(右から)許笑涵さん、王健さん。袋井市教育委員会にて



静岡理工科大留学生 2中国人が帰国報告

昨年九月から袋井市内に在住し、静岡理工科大(同市豊沢)に留学している中国人の許笑涵さん(三〇)と、王健さん(三〇)が三十日、市教育委員会を訪れ、鈴木一吉教育長に帰国前のあいさつをした。

二人は静岡理工科大と交流提携する浙江省の浙江工商大三年生。市学術交流振興基金の助成を受け、静岡理工科大で一般教養のほか、日本語を中心に学んだ。八月中旬に帰国する。

懇談で、許さんが「大学での生活は楽しかった。国に帰ったら、日本に関する研究や日本に関わる仕事をしたい」と話した。王さんは「自然豊かで人も優しい。旅行やアルバイトなども体験し、日本の文化の深さを感じた」と一年間の留学を振り返った。鈴木教育長は「袋井での経験を生かし、日本と中国の友好の懸け橋になっていただきたい」と期待を示した。

市学術交流振興基金は、一九九一年四月の静岡理工科大の開学を機に、市民や市内各企業の賛同により創設。市は国際化と人材づくりなどを目的に基金を活用している。(土屋祐二)

この記事・写真等は、中日新聞社の許諾を得て転載しています。